

アンケートにみる顔の美醜観

—セクシーを嫌う美意識。根強い、かわいらしさ志向—

結果要旨

眉が濃く
目が二重で大きく
鼻は高く
口は小さくて形がよい
小さな顔

が理想

1992. 4/6

ポラ文化研究所

(担当 村澤・高谷)

調査概要

★はじめに

誰でも自分の顔について好きな部分、嫌いな部分をもっているだろう。

その顔や顔の部分についてのこだわりを集団で見ると、その集団の美醜に関する意識、すなわち美意識を探ることができる。

この種のデータは、すでにいくつか散見するが、比較的新しいものでは、北星学園大学の太坊郁夫教授が大学生、男女379人を対象に調査研究された「顔の意識～顔、横顔そして自己意識」（ポーラ文化研究所委託研究 「化粧文化」18号、一九八八）が詳しい。簡単にごく一部を紹介すると、「顔の意識度と横顔の意識度との間には密接な正の関連があり、顔を強く意識している人は横顔についても同様に覚醒している」。「顔の意識度の高い人は、自分の顔の「口（唇）」を気に入っている傾向がある。また、顔を強く意識する人には、鼻、眼を気に入らないものが多く、さらに他の部位を挙げたものに比べて「眼」と答えたものに顔を強く意識しているものが多い」結果が得られている。

さらにここでの話題としての「顔のどこを気に入っている、どこが気に入らない」についても結果が紹介されているが、次の結果とほぼ同様のため、省かせていただく。

★本レポートの目的

15歳から65歳までの女性1300人（『おしゃれ白書'91』ポーラ文化研究所、一九九一）に「自分の顔で、一番気に入ったところはどこですか、どんな点が気に入っているのですか」と、反対に「一番イヤなところ」とその理由を自由記述で聞いた結果から、顔に対する美醜観を探る。

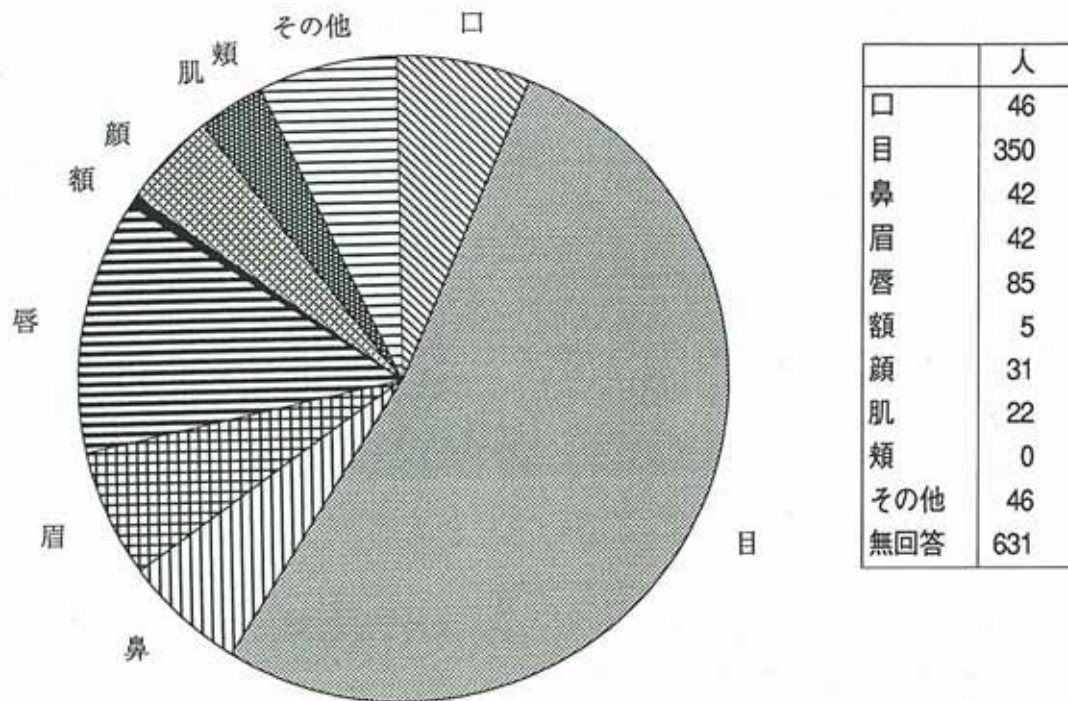
調査地域	首都圏30キロ圏内	調査対象者抽出法	エリアサンプリング法
調査対象者	上記地域内に居住する15歳から64歳までの女性1300人	調査方法	個別訪問面接聴取法、及び留置法の併用
年齢構成		調査期間	1991年 5月下旬
年齢	人数		
15～19	100		
20～24	150		
25～29	150		
30～34	150		
35～39	149		
40～44	150		
45～49	149		
50～54	101		
55～59	101		
60～64	100		
合計	1300		

調査結果

1. 顔で一番気に入ったところ

1300の内、約半数の669人から「一番気に入っているところ」の回答を得た。

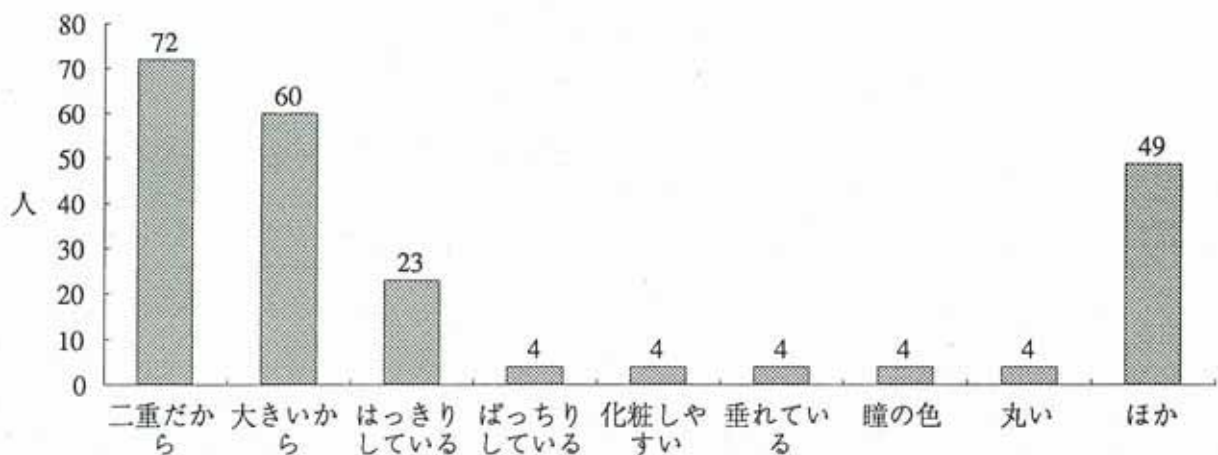
具体的にどこを挙げているのかを下のグラフに示した。第1位は「目」で、半数以上の52.3%（以下回答者全体を100として）の人が支持している。第2位が「唇」で12.7%と下がり、「口」6.9%、「鼻」6.3%「眉」6.3%と続く。圧倒的に「目」に集中していることがわかる。



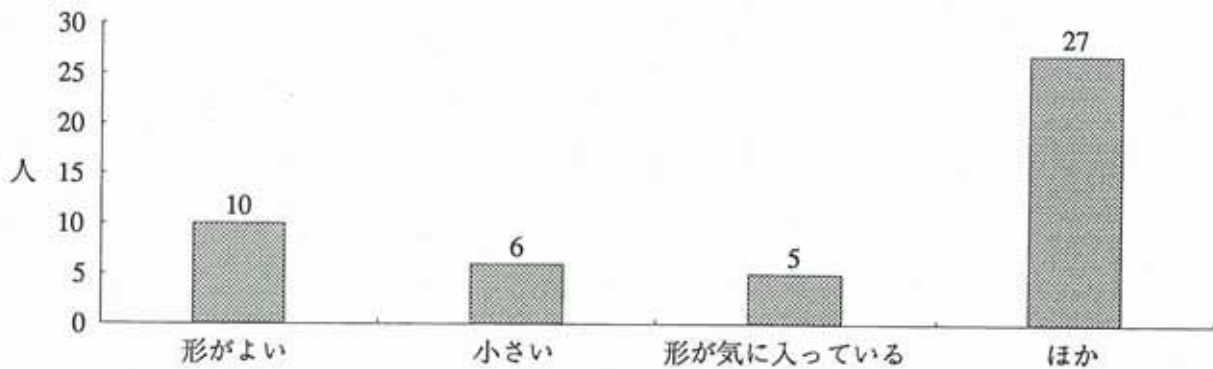
2. 「気に入っている理由」

さらに「気に入っている理由」を個別に見ることとした。

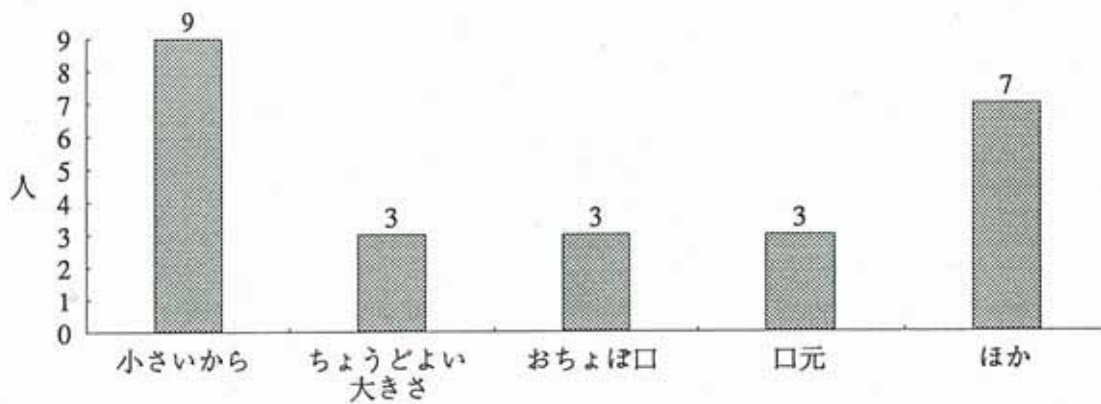
1. 「目」に関しては「二重だから」「大きいから」の二つが中心で、具体的に理由を記入してくれた人の58.9%がこの二つのどちらかに回答している。



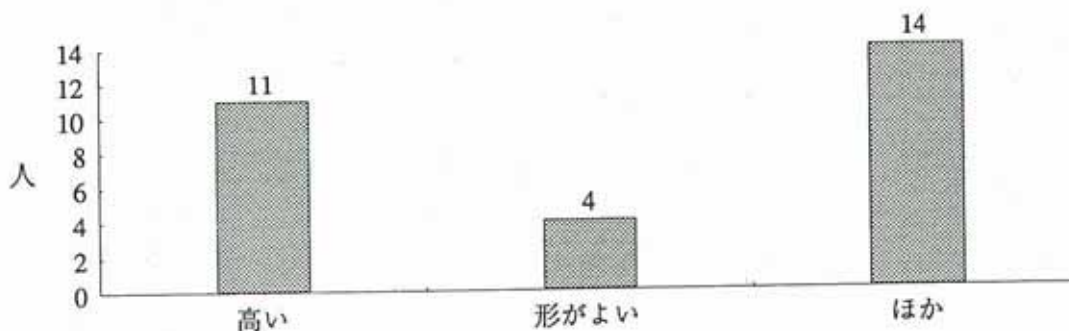
2. 「唇」では「形がよい」「小さい」「形が気に入っている」が主な理由となる。



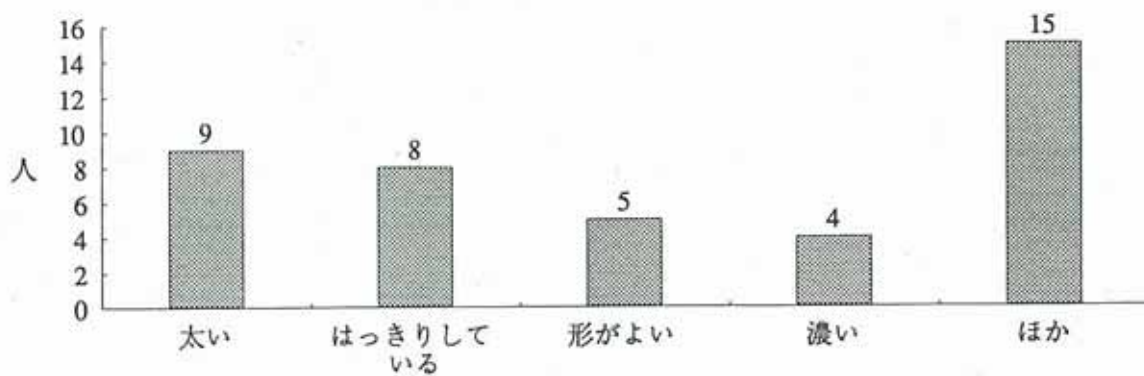
3. 「口」は回答数が少なくなるが、「小さい・おちょぼ口」が主な理由。



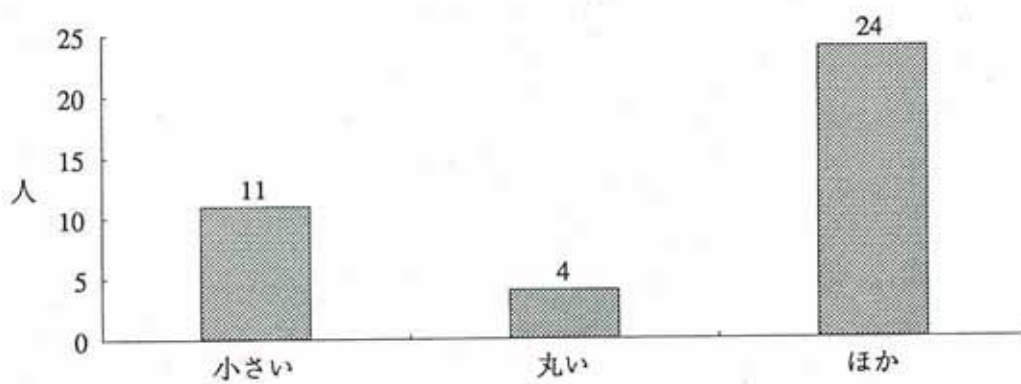
4. 「鼻」も回答数は少なくなるが、「高い」が第1位。



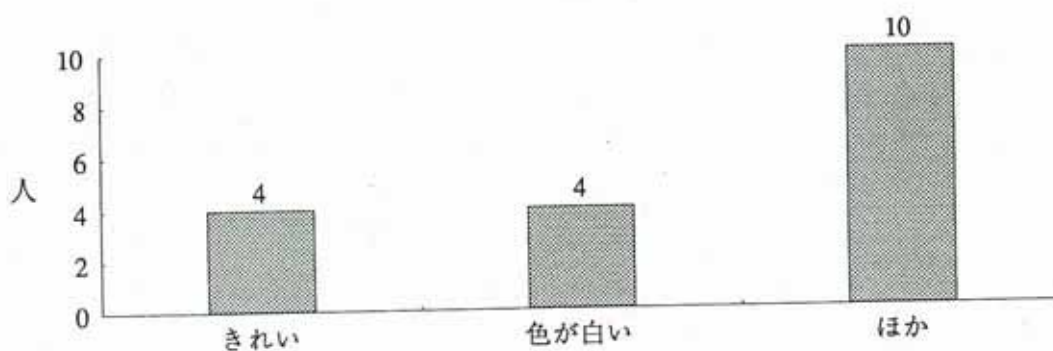
5. 「眉」では「太い」「はっきりしている」「形がよい」「濃い」が主とした理由となっている。



6. 「顔」について「小さい」を挙げている点が目立った。



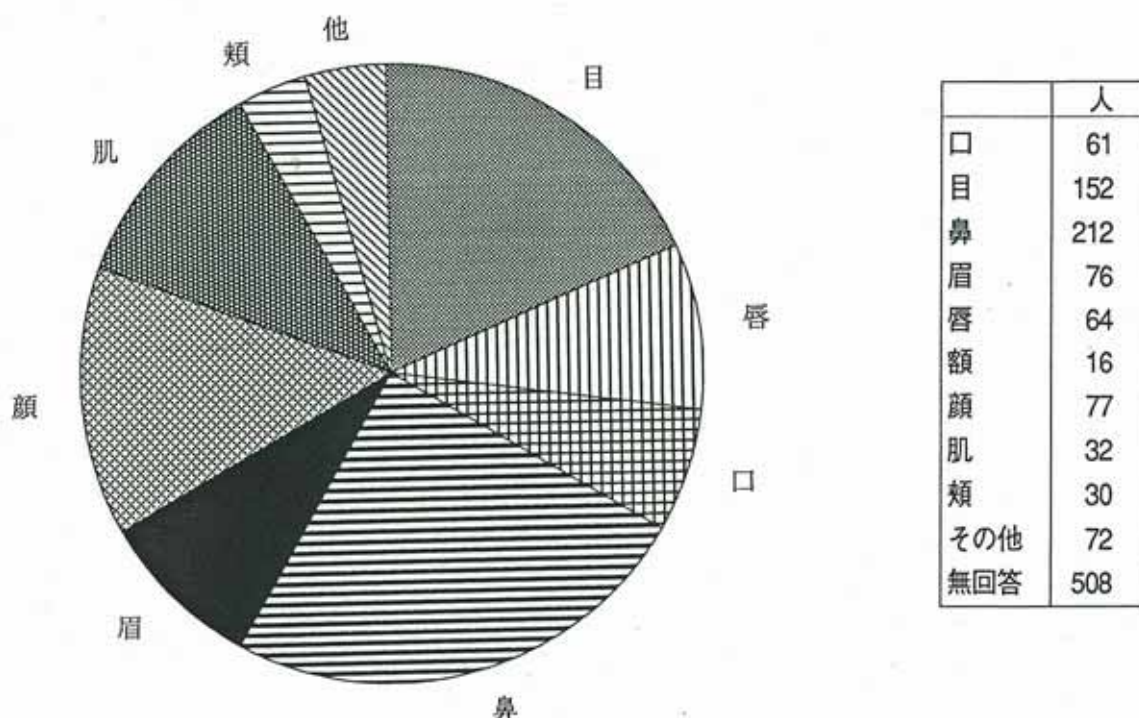
7. 「肌」は「きれい」「色が白い」があげられているが、理由を記した人は「肌」全体で18名である。



3. 「一番イヤなところ」

一方、顔の中で「イヤなところ」があると答えた人は、約60%の792人と「気に入ったところ」よりも多い。しかし具体的な回答では、「気に入ったところ」ほど集中せず、「イヤなところ」があると回答しながらも、具体的には人それぞれであることがわかる。

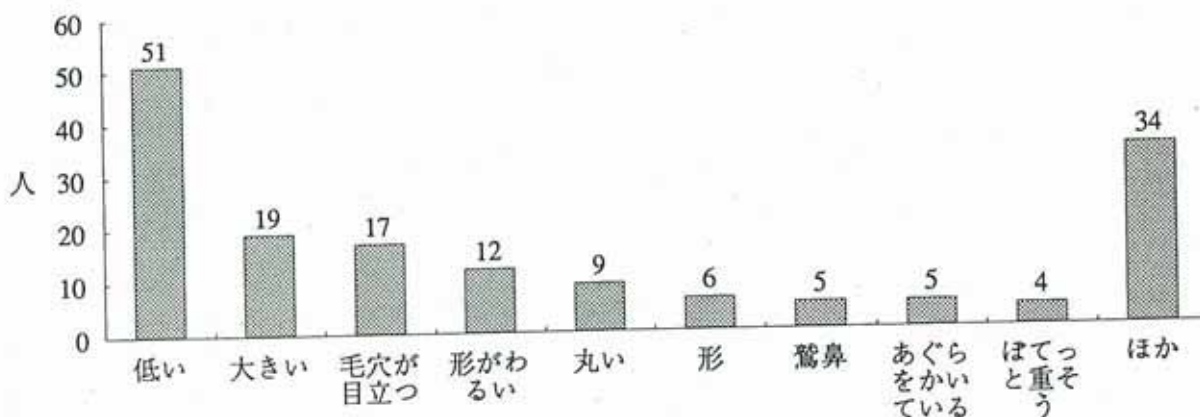
「イヤなところ」があるとした人の中でその順位を見ると、第1位の「鼻」で26.8%、2位が「目」で19.2%、つぎに「顔」が9.7%、「眉」が9.6%、「唇」が8.1%、「口」が7.7%と続く。



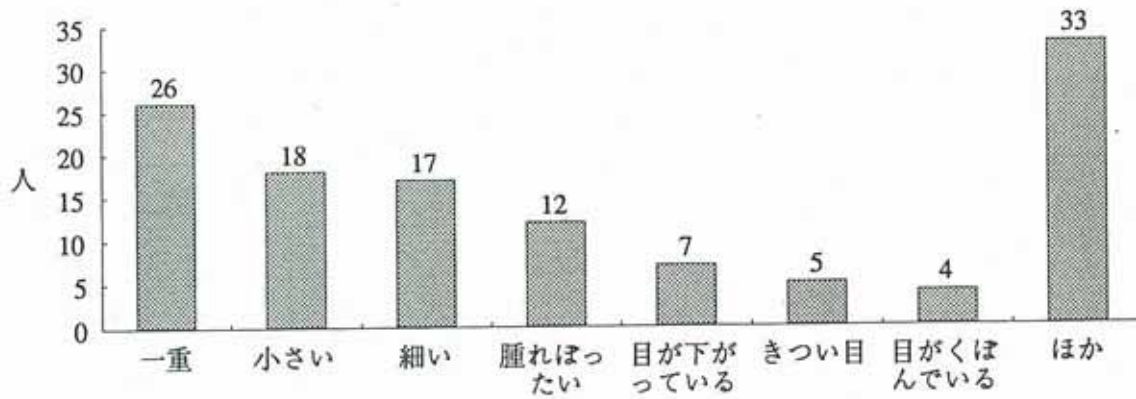
4. 「イヤな理由」

「気に入っている理由」と同様、「イヤな理由」を見ると、

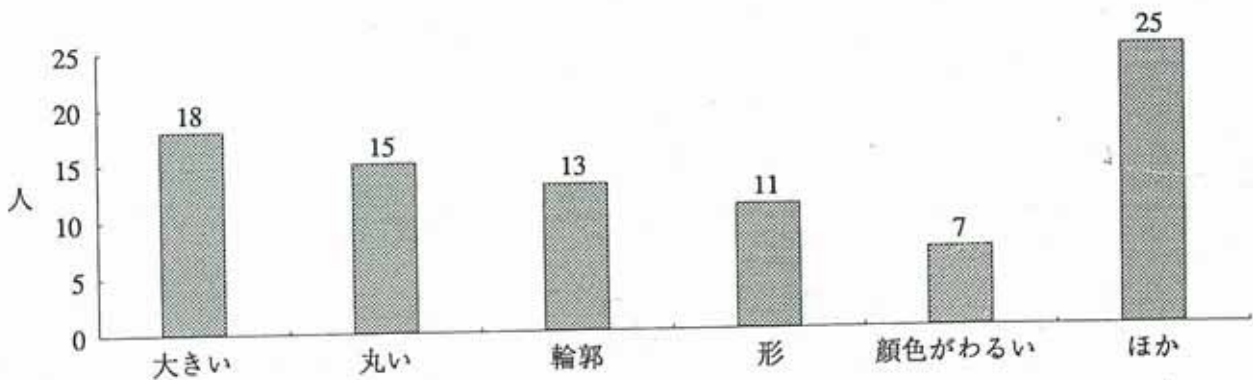
1.第1位の「鼻」は圧倒的に「低い」で、具体的に理由を書いた人の31.5%がそう回答してくれている。続いて「大きい」「毛穴が目立つ」となる。



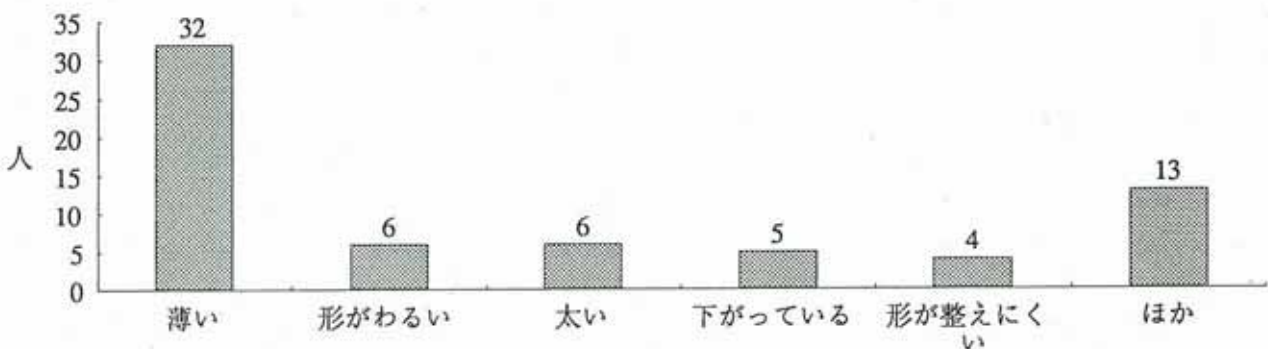
2.2位の「目」は「一重」「小さい」「細い」「腫れぼったい」が大きな理由で60.7%を占めている。



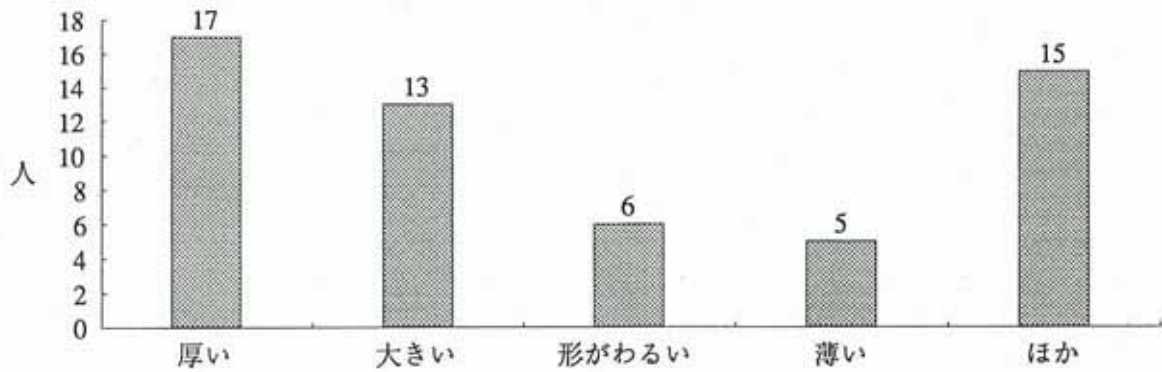
3.「顔」は「大きい」「丸い」「輪郭」「形」「顔色が悪い」の順で、7割を超える



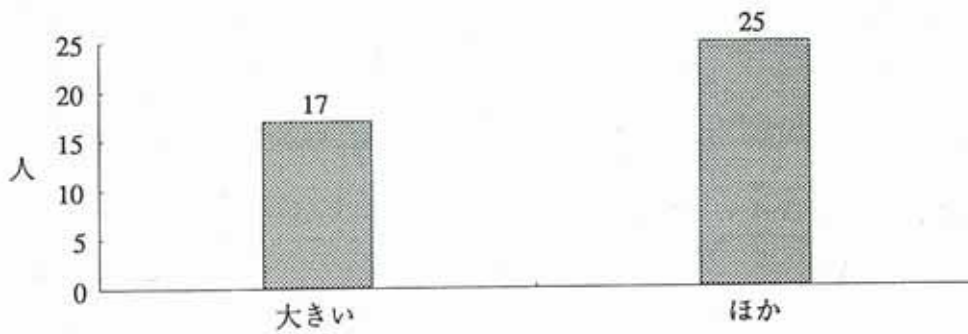
4.「眉」は「薄い」ことに対する意識が高く、ほぼ半数を占める。



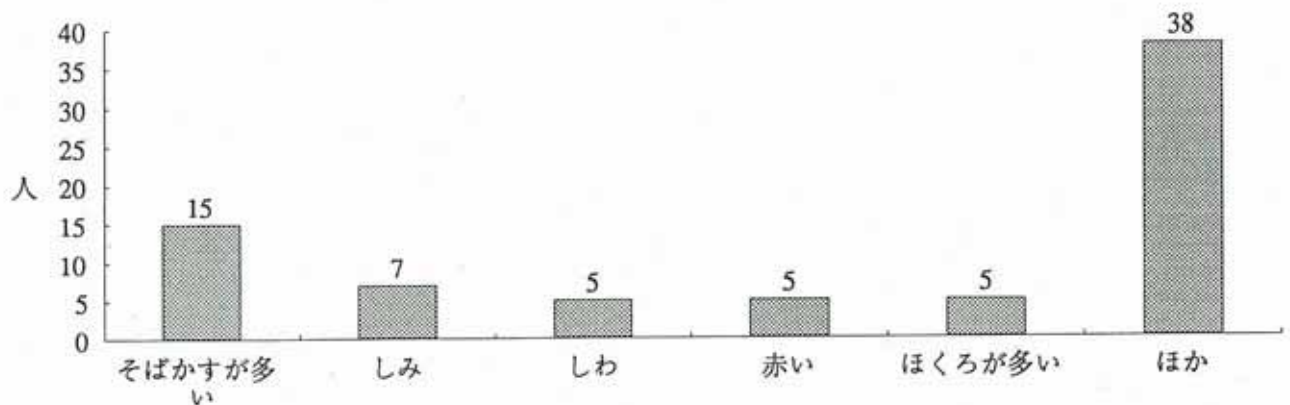
5.「唇」は「厚い」「大きい」という理由で半数を超え、「形が悪い」「薄い」と続く。



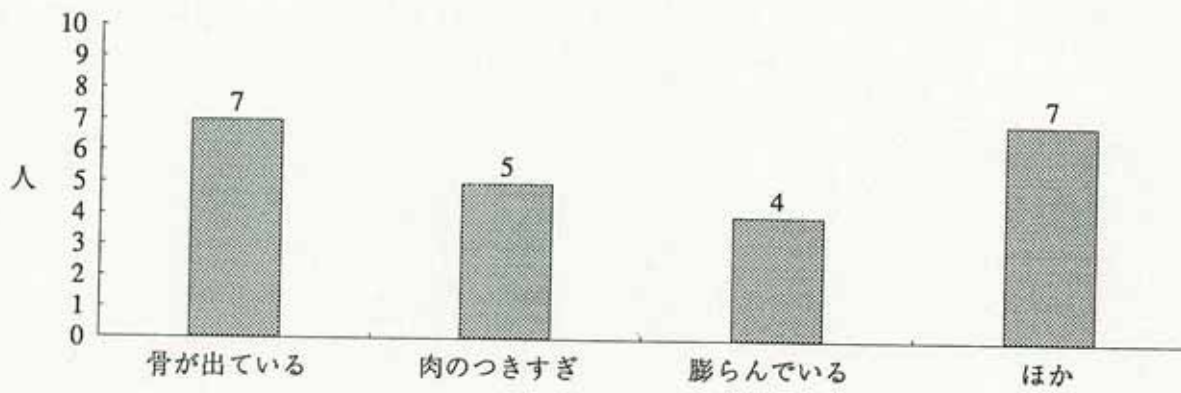
6.「口」は「大きい」ことに対する嫌悪感が強く、4割を超える。



7.「肌」は「そばかすが多い」が第1位で、「しみ」「しわ」「ほくろが多い」と続く。まとめると26種の回答があった。



8.「頬」は「骨が出ている」「肉が付きすぎ」「膨らんでいる」で代表される。



5. 理想的な顔

目は「二重で大きくはっきりしている」方がよく、「一重で小さく細い」目や「腫れぼったい」目は好まれない。

口は「小さい」方がよく、「大きい」とよくない。

鼻は「高い」に越したことはなく、「低い」とか「大きい」とか「毛穴が目立つ」ようだと嫌われる。

眉は「太い」「はっきりしている」ほうがよく、「薄い」とよくない。

唇は「形がよい」「小さい」ほうを気に入っており、「厚い」「大きい」のは好まれない。

顔は「小さい」方を好み、「大きい」「丸」くて「形」がよくないのを嫌う。

という傾向にある。

6. 考察——セクシーを嫌う美意識。根強い、かわいらしさ志向。

〈理想的な顔が語る意味〉

では、このような理想的な顔からどんな印象を感じだろうか。

この顔立ちは、女性雑誌の表紙などを飾る白人モデル志向を表わしているようにも見えるが、口が小さい点は異なる。日本人の基準から較べると、欧米人の理想とする口の大きさは大きい。そして、その大きさは成熟した顔立ちを意味すると考えられる。

もちろん、アンケート結果が描く理想の顔は、かつての浮世絵に出てくるような目の細い、伝統的で日本的な顔ではない。身の回りを探してみると、思い当たる節がある。人形で言えば、リカちゃん、ジェニーのようなイメージではないだろうか。あるいは少女漫画、コミックに出てくる主人公のようにも思える。

そのキーワードは子供っぽい「かわいらしさ」。決して成熟した顔立ちではない。それは口の大きさが小さいかことに起因するのだろうが、大きく口を開けて主張したり、スマイルしたり、積極的に自分を主張する表情は感じれない。自分を見せて表現するよりも、他人から見られることに重心が置かれた意識のようだ。

さらに、口に対する意識を掘り下げると、口が小さいことは性的に成熟していない、あるいは性を感じさせない、とも考えられる。言い替えると、セクシーさに欠ける美意識である。

八〇年代を通じて、女性の意識は変わったといわれる。ファッションもボディコンの流行などかなり成熟したからだを表現してきたと思うが、今回のデータからは顔の美意識に大きな変化を感じ取ることはできなかった。

これからも考えていきたいテーマである。